



# 第15号

(年2回発行)

発行所  
**喜多流大島能楽堂**  
 〒720-0814  
 広島県福山市光南町2-2-2  
 TEL. 084-923-2633

## 高等学校での能楽鑑賞会

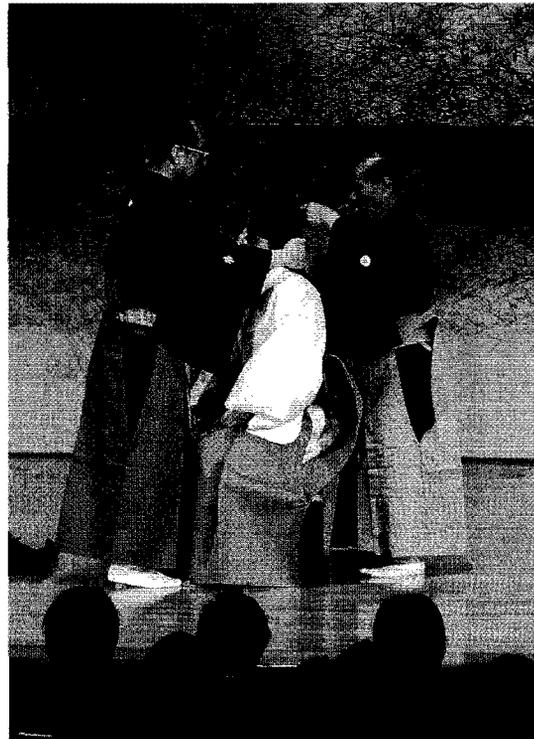
喜多流職分 大島 政允

昨春秋、地元の広島県立福山誠之館高等学校の講堂で高校生への能楽鑑賞会が行われました。この学校の前身は福山藩の藩校で祖父、父共にご縁を頂いている、歴史ある学校です。

昭和二十年の戦災で私方の舞台も焼失してしまいましたので、父久見は戦後数年間、能の公演を母校誠之館高等学校講堂でも催し、能楽クラブで、教職員の方々や生徒達と謡の稽古をしていました。その当時は福山市の中心地に位置していましたが、現在は福山駅の北方の少し小高い所に移転をしていますので、当時の面影はないかもしれませんが、父久見が存命ならどんなにか喜んだことでしょう。

当日は、高校生に能楽をより身近に理解してもらうようにワークショップ形式で行いました。プログラムは①能のお話しと謡ってみよう、②能装束の着付け、③能楽器体験、④能囃子鑑賞、⑤半能「巴」鑑賞です。多分初めて能にふれた生徒がほとんどだったでしょうが、反応もまずまずだったようです。

後日、誠之館高等学校校長先生より次のようなお手紙を頂戴しました。  
 『(前文略)』公演を通じて、本校生徒、教職員、保護者のそれぞれが能楽を身近な芸能として感じる事が出来ましたし、また、地元福山の地でこうした伝統芸能が受け継がれていることを誇りにしなければならぬと



広島県立福山誠之館高等学校 能楽鑑賞会  
 能装束着付 (2006. 11. 8)

改めて思っているところです。この度は、有益なご公演をいただき、誠にありがとうございました。(後文略)』

能は、ユネスコの世界遺産に日本の伝統文化では最初に登録され、世界の文化人から注目をされていますが、日本の戦前教育を受けた人達の減少とともに能楽愛好者の人口も減少している現状があります。今後、もっともっと教育現場で若い人たちが日本の伝統文化に触れる機会を増やしていただき、次世代にしっかりと継承できますよう皆様方のご支援、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

P2	謡語文	竹原善生
P3	弔辞	槇田英子
P4	『乙姫』恒久	梅屋福太郎
P6	能トレーニングプロジェクト 2006同行記	寺田良二
P8	能との出会いとその軌跡	シルク・スカイ

ご挨拶

平成十八年十月一日、義母大島知子(享年九十二才)は天寿を全うし、  
義父大島久見の待つ天国へ旅立ちました。  
生前、皆様より賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。

大島政允  
泰子



大島久見 知子 大島久見葬寿記念に(1994)

大島知子 経歴

大正五年三月二十二日、荒川泰伍とキヨノの長女として  
呉市栄町に生まれる。家業は軍用達の味噌屋。兄三人、  
弟、妹の六人兄弟で、幼少より能の稽古を受ける。  
昭和十三年三月二十九日、大島久見と結婚。  
能楽師の夫をよく助け、女性や子ども達の稽古をこなし、  
大島喜多会の発展に貢献する。

諷 誦 文

夫れ惟れば秋の日は清く碧空に輝き 涼風徐に広野を渡りて身に寒  
熱の厭いなく肌に快適の喜びあり 虫の声夜々唧々の妙曲を奏し 草  
の露は朝々団々の球玉を湛う

天地の温和静寧は故人温容の徳 清楚の姿を彷彿せしむ

茲に新圓寂安住院知恩静光大姉は 聡明慈愛の天資高く 温良貞淑  
の婦徳勝る 是を以てよく夫君を助けて従順謙和し 家庭にありては  
団欒の和樂をもたらし 能楽の場にありては衆人の恩徳知りて 交わ  
りを親疎の間に厚くし誼を上下に濃やかにす

然りと雖ども後凋の資質も頃来衰退の徴しあり 病床に伏して思い  
を家門に致して百代の榮昌を祈るも 遂に春秋九十一歳にして児孫の  
見守る中 晏然として他界に居を移さる 嗚呼悲しい哉

本日茲に遺族近親ら涙の袂を連ねて棺前に集い  
有縁の浄侶を請じて葬送の儀を執り行う

嘆いて由なく 悲しみて益なきは死別の恨みなり 故に仏法に帰し無  
上の菩提を祈る 然れば精霊 昨日は娑婆の旧宅に居すとも今日は浄  
土の新客となる

観ればそれ 清秋の風熱惱を払うて静寂の山河を渡り  
秋天の月朗らかにして片雲彩りを添う

今ここに大姉の芳魂を安養の彼岸に送らんとす

仰ぎ願わくは 大慈大悲の釈迦如来 大悲の宝手を垂れて幽魂を引導  
し安養の苑に厳浄の花を摘み涅槃の山に清明の月を眺めせしめ給わん  
ことを

乃至法界平等利益

時 平成十八年今月今日

護持法主敬白

竹原善生

# 弔 辞

お彼岸も過ぎて秋の七草も色づき、ようやく凌ぎ良くなつてまいりました。

本日は、大島知子先生との思いがけない悲しいお別れとなりました。

ご霊前に向かい、多くの弟子達と共に、ここに慎んで生前のご恩情に對し心から弔辞を述べさせて頂きました。

私にとりましては、幼い頃よりおばちゃん先生とお呼びして、新馬場町の家へ良く遊びに行つておりました。

おばちゃんは、我が子の様に可愛いがつて下さり、戦争中で何一つ物の無い時代に美しい裁縫箱を頂き、又甘いお菓子をもらつたりした懐かしい思い出があります。

その内、お仕舞の手ほどきを受け、阿部神社の舞台で舞つた思い出があります。

昭和十八年頃、おばちゃんは、東京の久見先生の元へ転居され、母親に別れた様なども淋しい思いをしました。

おばちゃん先生は、久見先生の出征中すべてのお弟子さんを教えられ、しつかり大島家を支えられたと伺つております。

昭和四十六年、現在の能楽堂が完成したのも、おばちゃん先生の内助



知子 久見  
召集令状の届いた日に (1924. 8. 14)



仕舞「網の段」知子 (1978. 1. 8)  
久見 政九 衣恵



能楽「瀬の浦」奉納記念 (1995. 10. 7)

- |       |       |      |      |        |      |      |      |      |      |
|-------|-------|------|------|--------|------|------|------|------|------|
| 水永トキ子 | 鬼嶋ヒナ子 | 村上達枝 | 横田英子 | 堀田 公 子 | 佐藤由江 | 大島知子 | 長鋪利恵 | 佐藤艶子 | 川崎栄子 |
|-------|-------|------|------|--------|------|------|------|------|------|

の功が実に大きかつたと思われまます。

弟子達と共に目黒の能楽堂、国立能楽堂にと回を重ねて参加、帰りは日光箱根等、観光をご一緒にさせて頂き有難うございました。

私の生涯かけて忘れる事の出来ない知子先生は最高の女性でした。凛としたお仕舞のお姿、朗々と響き渡る声、弟子達を思う気配り等、そして我が子共々、実の親のような恩情を賜り誠に有難うございました。

衣恵さんの現在があるのは、おばちゃん先生のお膝の上から始まつているのです。これこそ三つ子の魂百返の教えの如くつながつております。私の幼い時も同様に扇を持たせ、手とり足とり教えて下さつたからこそ、今日の私が有るとつくづく思う次第でございます。

多くの弟子達に残された数々の教えは、いついつ迄も私達の心に残り続ける事でしょう。

ご遺徳を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

平成十八年十月三日

大島喜多会 横田 英子

## 『乙姫』恒久

邦楽囃子方

四世 梅屋 福太郎

平成十八年九月二十七日、国立能楽堂にて、第五回「梅屋福太郎独創会」を開催させていただきました。演目は、創作舞踊『乙姫』、長唄『浦島』、創作能『乙姫』。すべて浦島太郎のお話です。平日の夜の公演でしたが、嬉しいことに開場前から門の外まで長蛇の列。そして満席。主催者としてはもちろんの事、出演者の一人として、真にやり甲斐のある一夜でありました。能の師であります大島先生の御協力なくしてはこの会の開催は不可能でした。改めてここに御礼申し上げます。

今回の会の第一の目的は、日本舞踊と能を一度に観ていただける機会を作りたいという事でした。それも、それぞれの特長がより一層際立つように、同じ題材、それも新作にしたかどうか。より多くの人々に観ていただく為には、作品の内容がよく知られているもの、もしくは、非常に分かりやすいもの。しかしながら、時代を反映するテーマが内在してはなくてはなりません。作品を通して何を訴えたいのか、どんな事を考えてほしいのか、示さなくてはなりません。最終的に太宰治の「浦島さん」(『お伽草紙』より)を原作にしました。

テーマは認知症です。かつて能や日本舞踊のテーマにはみられないものです。しかし誰もが古い、そして誰もが認知症になる可能性を持っています。現実問題、直面している人よりも、その回りにいる人の抱えている問題のほうが深刻です。五十歳を過ぎれば、介護の二文字がぐっと身近になります。太宰治の浦島太郎は、玉手箱を開けて三百歳になり、それからさらに十年、幸せに生きたと言う設定です。人間が感じる幸せとは何か。認知症になって感じる幸せとは何か。回りの人にとって幸せとは何か。考えさせられる事が一杯あります。三百十歳の浦島は幸せだった

うめ や ふくたろう  
梅屋 福太郎 氏

四世 梅屋福太郎 (守家輝信)

1949年生まれ。

大祖父は初代梅屋福太郎後に吾妻市十郎

祖父は二世梅屋福太郎後に梅屋左十郎

父は三世梅屋福太郎

4歳より日本舞踊を始める

13歳より父に師事し邦楽囃子の稽古を始める

昭和43年 喜多流大島政允師に師事し能楽の稽古を始める

昭和43年 幸流亀井俊一師に師事し能楽囃子の稽古を始める

昭和45年 梅屋喜重郎の名で邦楽囃子方となる

昭和52年～61年 「現代邦楽研究会」にて多数作調を手掛ける

昭和56年 父逝去により梅屋福太郎を四世として継承する

初代・二代・三代の追善と四代目襲名披露をする

昭和62年 「創作囃子の会」を国立小劇場にて主催し、創作『楽(うたまい)』を企画・演出・作調する

平成2年 第1回「梅屋福太郎独創会」を梅若能楽堂にて主催し、創作『灰被源氏』を作詞・作曲・作調する

平成6年 第2回「梅屋福太郎独創会」を梅若能楽堂にて主催し、創作『田楽桶狭間』を作調する

平成9年 第3回「梅屋福太郎独創会」を梅若能楽堂にて主催し、創作『GRATIA (ガラシヤ)』を作調する

平成12年 第4回「梅屋福太郎独創会」を国立小劇場にて主催し、創作舞踊『カチカチ山』を企画・演出・作詞・作曲・作調・作舞する

平成18年 第5回「梅屋福太郎独創会」を国立能楽堂にて主催し、『浦島さん』(太宰治原作)より創作舞踊『乙姫』を企画・演出・作詞・作曲・作調・作舞する

創作能『乙姫』を企画・演出・作詞する



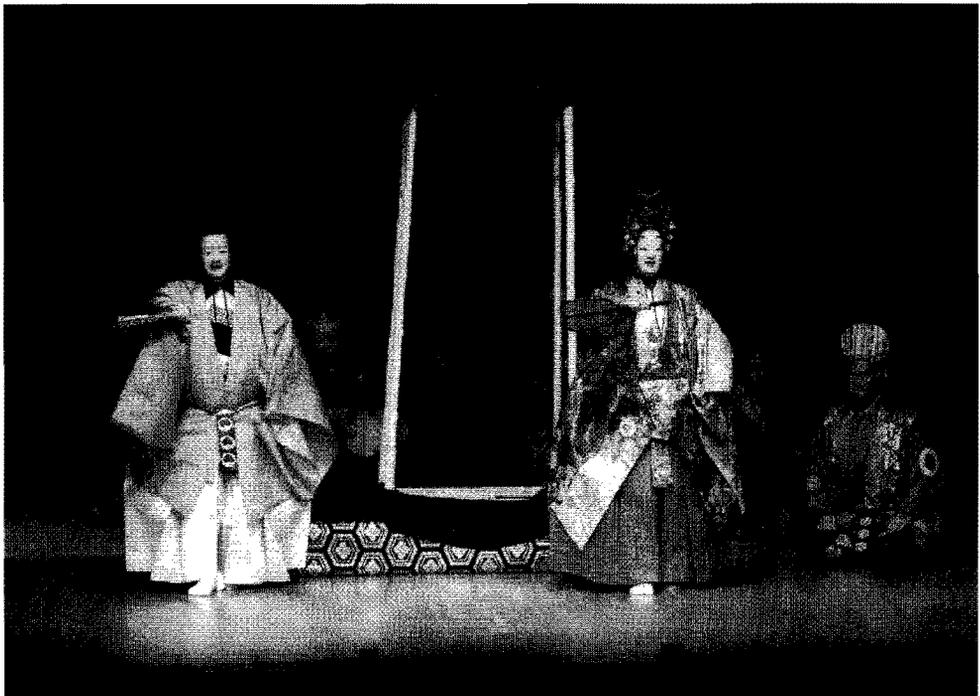


たという考え方が、介護をしている人々を精神的に救ってくれるのではないかと、折ってやみません。

今まで一度も、能も日本舞踊も観たことがない人が一人でも多く劇場に足を運んでくださるように。能は観たことがあるが、日本舞踊は一寸と言う人。日本舞踊は観たことがあるが、能は一寸と言う人。『乙姫』を観て、興味がわいて、さらに能を観てみよう、日本舞踊を観てみようと思う方が一人でも増えてくださるように。そのためには、最高の『乙姫』が必要だと考えました。

以上のような会の意図、そして会全体の構成等に大島先生の賛同を得まして、創作「乙姫」は動き始めました。色々と問題はありましたが、それも楽しい思い出として記憶に残っています。

会が無事終わった三ヵ月後、先生にお会いした折、同じ形で再演出来ればいいね、と言っていたいただきました。そのような機会が訪れる事を、私も願ってやみません。



新作能「乙姫」 浦島 大島輝久 乙姫 大島政允 竜 野村万之丞 (2006.9.27 あびこ写真館撮影)



# 能トレーニングプロジェクト 2006同行記

広島大島会

寺田良二

能トレーニングプロジェクト2006とは、

シアター能楽の芸術監督で武蔵野大学教授(アジア演劇、音楽研究)、喜多流舞教士でもあるリチャード・エマート氏が中心になり、一九九四年から企画・運営され、十二年間も続いている約三週間の能楽集中講習会です。二〇〇六年は七月十七日から八月四日まで開催されました。私は県立高等学校の英語教師を平成十八年春に退職し、大島政允師長女、衣恵氏がこの講座の講師を勤められるとのこと、おしかけ同行を志願しました。

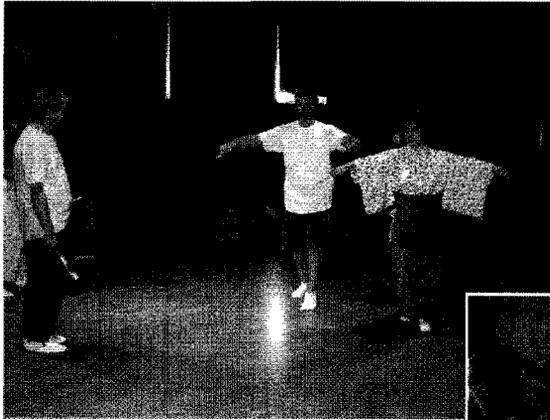
この講座の参加者は初回受講者九名、継続受講生十一名で、彼らの経歴は実に多岐にわたり、能への理解と技術習得への直向な努力と探究心には敬服しました。

講師陣は、エマート氏が太鼓・能管など能楽全般、大島衣恵氏が仕舞・謡、釜三夫氏が小鼓・

大鼓指導で、全員が囃子(小鼓・大鼓・太鼓・能管)、仕舞、謡曲を履修します。発表会用に、仕舞、囃子から一つを選択、仕舞地謡、新作能参加が全員に課せられます。

謡稽古は、自主作成の教本プリントを使い、全員が衣恵先生について口承練習します。男女とも、本当に大きな声を出し、謡うのには驚きました。ただ、難点は、強吟、和吟の区別がややあいまいで、アメリカ人的な大らかさで謡うので、どうしてもめりはり、抑揚に欠け、一本調子になる傾向があり、感情移入等の繊細な表現は苦手のようでした。しかし、参加者全員は、衣恵先生が二歳から能舞台に立ち、喜多流女流能楽師として自立するべく因習と伝統にチャレンジしながら、稽古と鍛錬に励む姿勢に共感し、先生の資質と力量に全幅の信頼を寄せ稽古を受けていました。

仕舞の稽古は、衣恵先生が各個人の謡、型付けなどを細かく検証、指導し、発表会に臨むというものでした。各人の仕舞型、所作の手本を示しながら、細部にわたって指導される衣恵先生の「正確な型」の美しさを受講者達はしっかりと感受していました。特に、継続参加者は「型の正確さ」の習得に非常に熱心で彼らの口から、しきりに *precisions* 「正確さ」という言葉を何度も耳にしましたから、「型の正確さ」が「型の美しさ」であるということの様式美を認識するという共通の審美眼を持っていました。



彼らの課題の一つに、仕舞のシテ謡が、どうしても英語的な抑揚がぬけきらず、和吟、強吟が曖昧という問題があります。(私たち日本人が英語学習する時、米国人人生来の言語学的抑揚の習得が困難なように)

参加者発表の仕舞「羽衣」キリ・「玉の段」・「山姥」・「蟬丸」は型も美しく、特にゲリー・マッシュウ(ハーバード大OB、哲学専攻大学教授)の「玉の段」は、アメリカ人であることを感じさせない、なかなかのものでした。

八月四日、能トレーニンング・プロジェクト最終日の能楽発表会には、アルピナ・クラウス劇場のステージに本格的な能舞台を作り、全員が紋付、袴(シアター能楽所有か個人所有)を着用し、発表しました。一般公開用に番組、曲目の解説を作成していましたし、観客約百五十名はいたと思います。私は、釜夫人とゲストとして名前が載り、仕舞地謡方として参加しました。

発表会の締めくくりは、衣恵先生による舞囃子「融」の早舞で、釜氏の太鼓、ジェームス・フアーナー氏の小鼓、エマート氏の太鼓、釜夫人の能管で、衣恵先生の紫色の紋付、薄い紺の袴、凜とした颯爽たる舞の美しさと気品は、言語の壁を超え、観客を惹きつけていました。能楽を日本から、福山から発信されている光景を異国の地、米国で目にし、大島一門の会員としてますます意を強くした次第です。

参加者の一人、スカイ女史は「能楽療法」の

考案者で、能楽の芸術的、演劇的要素(特に仕舞型)を基底にして演劇脚本を書き、さまざまな精神的、知的障害を持つ人たちと又自らも演じてセラピーを行う治療者です。女史との出会いは、衣恵先生歓迎パーティーの席で、衣恵先生をワシントンに招待し、自分の経営する施設(芸術・演劇治療院)を是非見て欲しい、私に同行して手助けをして欲しいと依頼されたのが始まりでした。

八月五日、発表会の翌早朝、女史の手配で、ワシントンから巨大なリムジンがアパート玄関前に横付けされたのには度肝を抜かれましたが、家庭にも招待され、二日間、VIP気分ですワシントン滞在を楽しみました。

その後、スカイ女史は九月に来日し、衣恵先生に仕舞・型の稽古を受けるため福山に約二週間滞在しましたので、私も多少お手伝いをする事ができました。この間、広島の自宅にも招待し、又、三次市吉舎町の義母宅に二日間滞在してもらい、家内と共に三人で、安芸高田市神楽湯治村や神楽の里、北広島町千代田に神楽面を求めて小旅行をし、楽しい交流となりました。今後とも、大島政允先生、衣恵先生のご指導のもと、能楽を通じてささやかながら国際交流ができればと思っています。能トレーニンングプロジェクト2006に同行、参加させていただいたことに、改めて感謝しております。合掌。

# My journey of, about and through Noh

## 能との出会いとその軌跡



by Dr. Sirkkku Sky M. Hiltunen

シルク・M スカイ ヒルトネン博士

教育学博士、  
合衆国登録演劇セラピスト、  
認定演劇セラピストトレーナー、  
認定芸術セラピスト、  
カウンセラー専門技能免許取得者  
芸術・演劇治療院創立者、副院長

私が能の持つ魅力、畏敬、靈感、歓喜を知り、能への探求の旅を始めて、かれこれ四十年の月日が流れます。一九六六年、私は、母国フィンランド、ヘルシンキの学生劇場で、初めて西洋的に脚色、演出された能「班女」を見ました。

さらに、私が本格的な能を見ましたのは、ヘルシンキ大学演劇学科に在籍していた大学生の時に、東京在住の観世流能楽師、橋岡九馬師一行によるフィンランド、ヘルシンキにあるスベンスカ劇場での、「菊慈童」と「葵上」の演能でした。演能後、出演者との交換会が演劇学科主催で開催され、能についての解説、舞の型の紹介と実演、能の持つ象徴的な表現方法などの内容が話し合われました。フィンランドにおける能楽との出会いで、言葉では表現できないほどの複雑な好奇心に駆り立てられたのです。

五年後の一九七二年、私ははじめて日本を訪問し、滞在期間中、能に対する理解を深める貴重な機会を持つことができました。京都滞在中においては、できうる限り観世会館に足を運び、観世流能楽を鑑賞しました。しかし、外国人鑑賞者に対し、英語による解説、説明は一切なく、舞台で演じられる能を鑑賞する手立ては何もありませんでした。しかしながら、日本で実際に能舞台にて演じられる能を鑑賞し、私の人生は全く違うものになったのです。京都での能楽鑑賞を通して、難解な言語理解の限界を超越し、能楽の持つ精神的な本質を体感することができたのです。(中略)

私の詩的感性が、能は演劇や舞台芸術を超越

したものであると教えてくれました。人間を超越した力と深遠で、人の心を癒すことの出来る衝撃的な力が能にあることを私はしっかりと認識したのです。

また、京都での体験は、一九六〇年代演劇研究の間、研究対象の一つであった仮面に対する興味、関心を再び私に呼び起こさせました。一九七三年、日本、英国から帰国した後、世阿弥の「花伝書」を手にすることができ、私のドラマセラピー(演劇療法)に能の本質を活用するようになりました。

このような経過を経て、私は能楽を通して、独自の治療方法としてのNoh Ki Do(能気道、商標)とTherapeutic Noh theater(能楽治療、商標登録)の創作、開発に取り組んだのです。日本で、私が能楽関係者と交流を持ち、能楽の指導者を探すのに二十年近くの歳月が必要でした。一九八八年から、私は仕舞と謡曲を習っています。この間、いろんな流派の仕舞、謡曲を稽古したのはある意味において全く異常なことでしたが、流派を変わるのにはそれぞれいろんな理由があったのです……。二〇〇〇年には私は金春晃実先生につきました。その後先生はお亡くなりになり、その時は空虚な喪失感だけが残り、今後どのようにして能の習得を続け、どうすれば新しい師につけるのかはつきりした展望の持てない状態でした。

私は生活の指針として直感力、信念、創造力、直感的な決断力を重要視しています。私は二〇〇六年八月、リチャード・エマート氏主催によ

るペンシルバニア州ブルームズバーグでの「能トレーニングプロジェクト2006」のことを開催二日前に知り、急遽参加を決めました。

この能楽ワークショップで、大島衣恵先生と出会い、衣恵先生こそ私の能楽の師と直感しました。終了後、私はワシントンにある私の経営する小松原恵子能舞台を見て欲しいと懇願し、先生をご招待しました。

そして、二〇〇六年九月、衣恵先生の指導のもとで能楽の研修を深め、修羅物の型付けの習得をすべく訪日いたしました。衣恵先生の稽古は密度が濃く、集中的に取り組みました。今回の稽古の目的は正確な型の習得だけでなく、最も重要な舞手の役への意識づけと気迫の大切さを体得することでした。能における舞は舞手による所作、摺り足の一步一步に精神を集中させ、それを完全にするために鍛錬が必要であり、重要だと思っています。

私は衣恵先生の稽古を受けることが出来、さらにご家族の方全員とお目にかかることができましたことは大変光栄なことでした。特に衣恵先生の母上、大島泰子様は大島能楽堂の中心的存在で、能楽興行のプロモーターであると同時にマネージャーでもあり、「おおしま草紙」という機関紙を定期的に発行されています。私の福山滞在中には、お食事にご招待していただき、またおいしい家庭料理をごちそうしてくださいました。本当に心温まる歓待をしてくださいましたことは感謝に耐えません。

さらに、福山滞在中、幸運にも「自然居士」

「紅葉狩」の申し合わせを見せていただくという貴重な機会にも恵まれ、「紅葉狩」でシテ連れの役を勤められた大島文恵、紀恵さんともお話をすることができました。申し合わせ後、出演者とお食事会にも招待され、「自然居士」のシテ役、喜多流職分松井彬先生にお会いし、お話ができたのは幸運でした。ブルームズバーグでの能トレーニングプロジェクト2006で、新作能「鷹の井戸」をビデオで鑑賞し、シテを演じられた先生の演技に魅了され、是非お会いできればと思っていたのです。私は、福山に滞在し、本当に人生における貴重な経験をし、この経験を仕事に生かすべく新たな創作に挑みたいと思っています。

九月十七日、大島能楽堂での大島衣恵先生の「紅葉狩」は大変素晴らしいものでした。型の精密さ、序破急、極端な静から動へ、動から静への移行、時には攻撃的でさえもあつた所作、気迫と力強さの表現が最も印象的でした。今回の日本滞在中、偶然にも他流派の能「紅葉狩」を三度見る機会がありました。大島先生の「紅葉狩」が私にとって最も魅力にあふれ、圧巻でした。その後九月二十三日、東京喜多能楽堂で大島輝久氏の「知章」を観て感動しました。その演能から、大島家五代に渡って引き継がれている芸の伝統を見ることができたと思っています。

私の夢は、故国フィンランド、ヴィルタサルミに能舞台を建設することです。建設の暁には是非、大島先生にその舞台に立っていただき

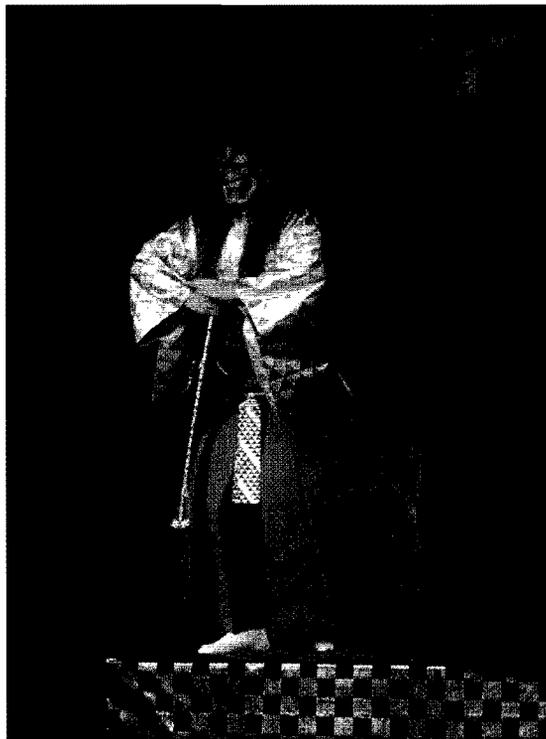
いと考えています。できれば、私の生まれ故郷の小さな村、ヴィルタサルミと姉妹都市縁組を結び、能楽を通して交流ができる都市があればと、それも福山市と姉妹縁組ができれば、能楽公演は可能であると模索をしているところです。ヴィルタサルミには私の運営するイルマータ施設があり、その小さな訓練施設で、二〇〇七年、「能気道」と「能楽治療」のプログラムの企画・運営を計画しています。

最後になりましたが、今回の私の訪日にあたり、大島衣恵先生をはじめご家族並びに関係者の皆様から受けました多大なるご好意とご厚情に感謝いたします。また再びお会いできることを祈念しております。本当にありがとうございます。  
(翻訳 寺田良二)





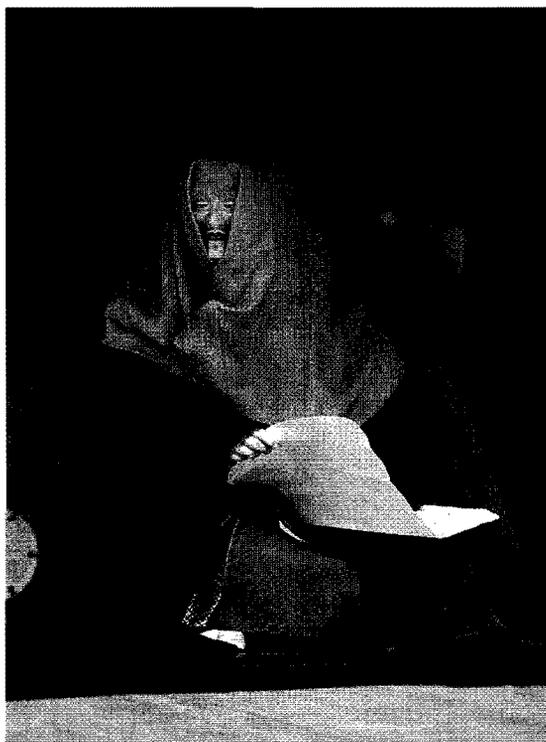
能「知章」 シテ大島輝久  
於 東京喜多能楽堂 (2006. 9. 23 池上嘉治撮影)



能「紅葉狩」 シテ大島衣恵  
於 喜多流大島能楽堂 (2006. 9. 17 池上嘉治撮影)



能「景清」 シテ大島政允  
於 喜多流大島能楽堂 (2006. 11. 19 池上嘉治撮影)



能「鬼界島」 シテ大島政允  
於 岡山後楽園能舞台 (2006. 11. 3 池上嘉治撮影)

### 鞆の浦新春能楽祭



鞆の浦新春能楽祭 囃子「翁」(2007.1.3)

平成十九年の年が明けた。大島家の演能は一月三日、鞆の浦新春能楽祭から始まる。鞆の沼名前(ぬなくま)神社には、秀吉ゆかりの国重文の能舞台がある。その舞台で能『翁』が奉納される。

鼓が鳴り笛の音が響くといつも空気が一変するが、殊にお正月にお囃子を聴くと心が改まる気がする。自然と背筋が伸び清々しい気持ちになるから不思議だ。寒い中で観るといいうのもまたいい。

由緒ある舞台で、鞆の浦の銀色のさざ波を眺めながら『翁』を観ることができなのは、本当に幸せなことだ。健康で、お正月という晴れの日に能に出会うよろこび。新しい年が来たのだと実感する。

『翁』を「観る」と言ったが、『翁』は神様に奉納される舞いだから、「観る」というのは違うだろう。新しく生まれ変わった神様に、演者と一緒になつて祈るような気持ちで立ち会わせていただいた。

殊に今年は、父を車イスに乗せて連れて行くこと

ができたので感動がひとしおだった。昨年のお正月はまだ長時間の外出ができる状態ではなかったが、今年は気候も穏やかでもあったので思い切つて一緒に参加した。(後文略)

森 和子

中井正一研究会  
会報準備号  
第七十五号より

### 福山市立南小学校能学習発表会



福山市立南小学校 能学習発表会 於 大島能楽堂(2007.2.20)

(前文略)

能の発表会では、子どもたちだけでなく、保護者からも「こんな場所で発表させていただけるとあって、南小学校はすごく恵まれてるなあ。」「是非、来年もお願いしたい。」など喜びの声をいただきました。

私も、初めは能の良さがわからず、ただただついて語るだけでしたが、ゆつくりとした動きの中にある力強さ、所作の美しさなど、少しだけではありますが、子どもたちと同じく、能の奥深さに触れることができたと思っております。

(後文略)

小学校六年担任



はかまやたびを準備して下さったり、やさしく指導して下さって、ありがとうございました。初めて能を体験してみて、声の出し方などが、わかりませんでした。でも、大島さんのわかりやすい説明のおかげで、なんとか最後までみんなでおぼえて、みんなでいい発表ができたので、とてもいい体験だったと思います。姿勢も前より良くなりました。心もひきしまった感じがします。そして、能舞台まで使わせていただいて、本当にありがとうございました。無事に終わり、成功したことが何よりうれしかったです。これからの生活の中で、生かしていきたいと思います。この体験を忘れません。本当にありがとうございました。

南小学校6年生

## 2007年度 演能ご案内

開催日	催名	開演	会場	鑑賞料	演目
4月15日(日)	大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「嵐山」金子匡一 狂言「昆布売」井上菊次郎 能「海人」大島衣恵
5月20日(日)	喜多流春の会	10:00	喜多流大島能楽堂	無料	能「田村」・舞囃子・仕舞・素謡
5月27日(日)	喜多流職分会自主公演	11:45	東京喜多能楽堂	一般 6,000円	能「弱法師」大島政允
6月6日(水)	国立能楽堂定期能	13:00	国立能楽堂	正面 4,800円	能「飛鳥川」大島政允
6月17日(日)	大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「班女」大島政允 狂言「酢薑」茂山千五郎 能「鶴飼」長田 驍
7月28日(土)	福山八幡宮新能	18:30	福山八幡宮	前売日 3,000円 当日 3,500円	舞囃子「野守」大島衣恵 狂言「昆布売」茂山千五郎 能「融」青木道喜
8月16日(木)	瑞泉寺ろうそく能	16:30	瑞泉寺	無料	創作能「瑞泉寺」
9月22日(土)	喜多流青年能	12:00	東京喜多能楽堂	一般 4,000円	能「天鼓」大島輝久
9月30日(日)	大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「敦盛」松井 彬 狂言「佐渡狐」野村又三郎 能「殺生石」 女体 大島政允
10月21日(日)	福山文化祭秋の会	10:30	喜多流大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
11月10日(土)	鞠の浦名舞台	10:00 13:30	沼名前神社能舞台	無料	能学習発表 能楽ワークショップ
11月13日(火)	はじめての能楽大会	13:00	岡山後楽園能舞台	無料	能学習発表・鑑賞会
11月17日(土)	広島平和能	13:00	アステール能舞台	要整理券	能「枕愁童」大島政允 能「野宮」友枝昭世
11月18日(日)	大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「通小町」大島政允 狂言「千鳥」茂山 茂 能「融」大島輝久
11月23日(祝)	広島大島会	10:00	アステール能舞台	無料	能・舞囃子・仕舞・素謡

編集デスクより

フィンランド出身のスカイ  
女史がアメリカの地で能楽  
療法を考案し、普及されて  
いることに敬服の念を抱き  
ます。  
能が秘める不思議な魅力  
をもっと多くの人々に伝え  
るには、小さい時から何気  
なく能にふれる機会を増や  
す必要があります。  
日本で初めての紙芝居  
「しょうじょう」製作中  
です。乞うご期待!

**お知らせ**

**子どもの日スペシャル**  
**お能で遊ぼう!**

とき 平成19年5月5日(祝)  
10:30~11:30

ところ リーデンローズ練習室

募集 幼児~小学生  
先着30名 **要予約**

内容 紙芝居「しょうじょう」  
おうたい・リズム遊び~能ばやし



**喜多流大島能楽堂**

〒720-0814 広島県福山市光南町2-2-2  
TEL 084-923-2633  
FAX 084-923-8730  
<http://www.osimanoh.gr.jp>